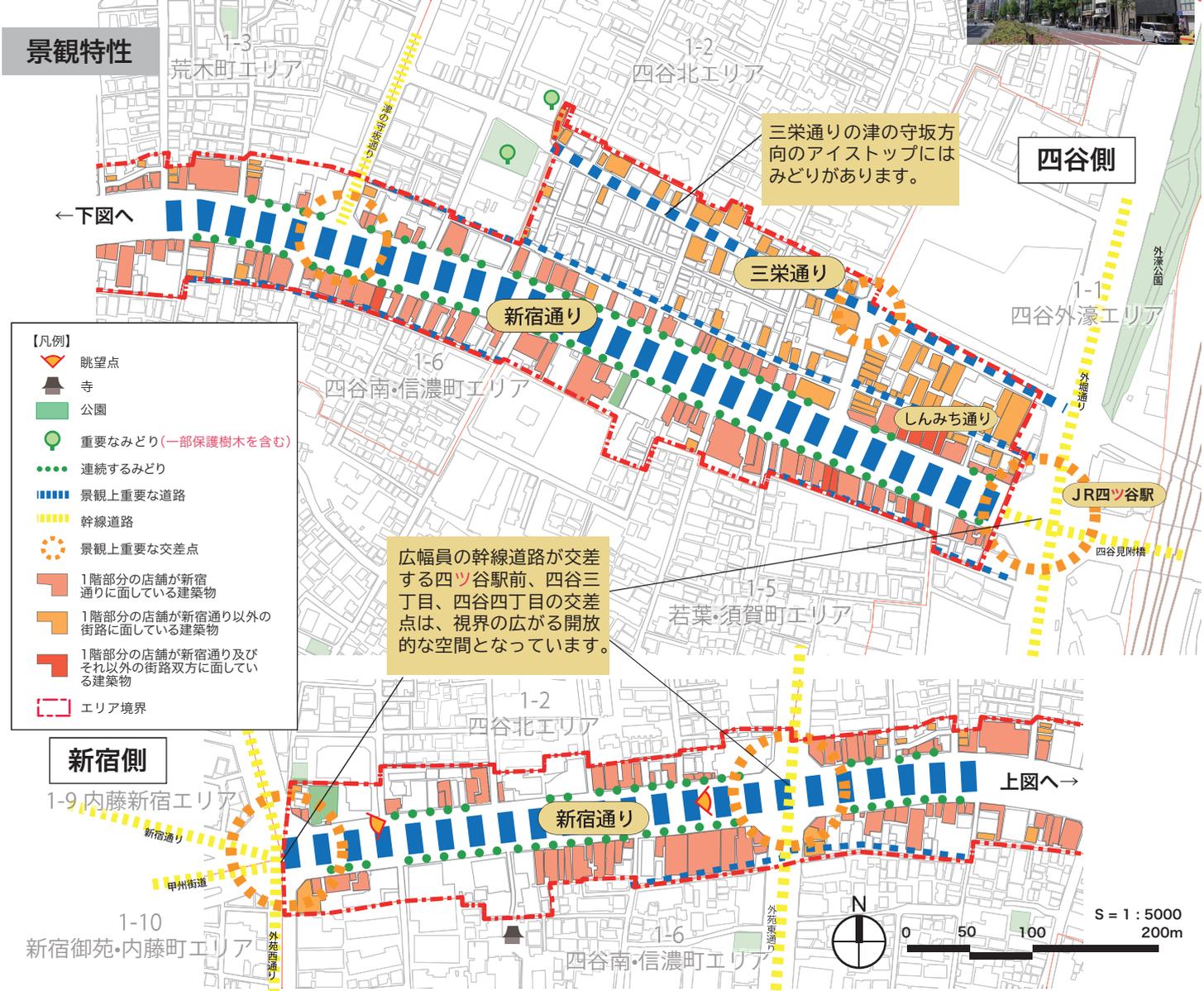


1-4 四谷新宿通りエリア

四ツ谷駅前と新宿駅東口を結ぶ新宿通りは、新宿区の骨格となる風格ある通りです。四谷見附橋から、四谷四丁目交差点までの区間では、低層部*の賑わいが連続しています。



1. 風格ある新宿通り



新宿通りは片側4車線の広幅員幹線道路です。その沿道には、高層建築物が壁面線を揃えて建ち並んでいます。こうした広幅員幹線道路と高層建築物が、スケールの大きな景観を創出しています。また、他の幹線道路との交差点は、視界の広がる開放的な空間となっています。

2. 賑わいの連続



新宿通り沿いのほとんどの建築物は、壁面を後退させず道路境界線に揃えており、低層部には店舗が連続しています。通りに対して開放的で沿道の賑わいを形成する設えの飲食店があり、歩行者が通りを楽しむことができます。こうした賑わいの連続が快適な歩行者空間を創出しています。

3. 並走する道路のまちなみ



新宿通りの北側には、しんみち通りや三栄通りが並走しています。しんみち通りには、小規模な飲食店が軒を連ね、昔ながらの賑わい景観が見られます。三栄通りは歩道が整備され、低層部には店舗が見られ、落ち着きながらも賑わいを感じられるまちなみとなっています。

新宿通りを中心とした賑わいと風格のあるまちなみへ

沿道建築物の形態意匠*をコントロールしていくことで、新宿区を代表する道路景観を創出する。

景観形成の方針

1. 風格を保ちながら、 変化をたのしめる新宿通りの沿道景観をつくる

景観形成の考え方

新宿の賑わい交流の骨格である新宿通りと沿道建築物とが調和した、賑わいと風格のある新宿通り沿道の景観形成を図る。

具体的な方策

- スカイライン*や壁面の位置の連続性に配慮する
- 風格を保ちながらも、まちなみの変化をたのしめるファサード*となるよう工夫する
- 壁面の分節化を図り、長大な壁とならないよう配慮する
- 屋上広告物は、設置しないようにするか、建築物と一体的に計画し、周囲からの見え方に配慮する
- 交差点の角地に位置する建築物は、まちなみのシンボルとなることを考慮し、落ち着いた意匠*やデザインとする



風格を保ちながらも、まちなみの変化をたのしめるファサード

2. 新宿通り沿道の低層部の賑わいを連続させる

景観形成の考え方

新宿通り沿いでは低層部の形態意匠を工夫し、歩く人に快適な賑わいと潤いをつくる。

具体的な方策

- 低層部には、人が溜まれる空間をつくる
- 低層部の賑わいを感じられるよう、開放的な意匠とする
- 夜間景観に配慮し、シャッターは透過性の高いものとする
- 低層部やエントランス部の照明によって賑わいある夜間景観を創出する



賑わいの景観を生み出す店舗のづくり

3. しんみち通り・三栄通りの 賑わいあふれる沿道景観をつくる

景観形成の考え方

新宿通りと並走する通り（しんみち通り・三栄通り）の個性を活かした賑わいあふれる景観をつくる。

具体的な方策

- 新宿通りとしんみち通りの双方に接する場合は、しんみち通りに対しても正面性を持たせる
- しんみち通り沿道では、まちなみの連続性に配慮した壁面の位置とする
- 壁面の分節化を図り、長大な壁とならないよう配慮する
- 三栄通り沿いでは重点的に緑化を行い、潤いとやすらぎを感じさせる通りをつくる



まちなみの連続性に配慮した壁面の位置とする

1-5 若葉・須賀町エリア

台地とそれに入り組む谷地、崖地からなる高低差の大きな地形が特徴となっています。谷地を通り緩やかに曲がる若葉通り沿いには、店舗や住宅が建ち並んでいます。東側の台地上は住宅地となっており、西側の台地上には寺社が建ち並んでいます。

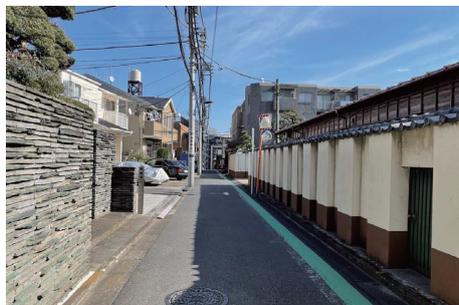


1. 緩やかに曲がる若葉通り



谷地の中央を通る若葉通りは、谷地に沿って緩やかに曲がっています。また、若葉通りから崖地へ向かう路地により、谷地特有の閉塞感は軽減されています。

2. 台地上の整ったまちなみ



台地上は江戸時代の道路基盤を受け継いだ整ったまちなみとなっていますが、若葉通りの東西で異なった景観となっています。東側は公園や学校、みどりが多い住宅からなる良好なまちなみとなっています。西側は門や瓦塀を有する寺社の落ち着いたまちなみが特徴となっています。

3. 台地と谷地からのそれぞれの眺め



谷地を取り囲むように台地上に寺社が立地しています。須賀神社などからの眺めは、このエリアの地形を感じる特徴的な景観となっています。また谷地からの眺めは、寺社の空地により閉塞感が軽減されたり、寺社自身がアイストップ*となっている所もあります。

谷地と台地を活かした寺社の雰囲気と調和したまちなみへ

谷地と台地間の結び付きに配慮しつつ、それぞれの土地利用の特性を活かしてまちなみを整える。

景観形成の方針

1. 明るく潤いのある若葉通りのまちなみをつくる

景観形成の考え方

谷地を通り崖に挟まれ暗くなりがちな若葉通りでは、緩やかなカーブを活かし変化のある明るい景観をつくる。

具体的な方策

- 壁面の分節化を図り、長大な壁とならないよう配慮する
- 崖上では崖下からの眺めに配慮し、圧迫感を軽減するような形態意匠*とする
- 視線が集中しやすい道路の折れ曲がり部分などでは、積極的に緑化を行う
- 道路沿いでは安心感のある照明を用いる



屈折部の緑化

2. 台地上からの眺めを保全する

景観形成の考え方

寺社の境内や台地上からの眺めを保全する。

具体的な方策

- 須賀神社や坂道からの眺めに配慮した配置や形態意匠とする
- 屋上広告物は設置しないようにするか、建築物と一体的に計画し、周囲からの見え方に配慮する



須賀神社から谷地への眺め

3. 寺社の雰囲気を活かしたまちなみをつくる

景観形成の考え方

寺社の集まる須賀町を中心に、今もなお残る寺社地らしい歴史的・文化的な景観を保全する。

具体的な方策

- 外壁は寺社の雰囲気と調和した、色彩や素材とする
- 寺社の雰囲気と調和した外構*や植栽とする
- 若葉通りから台地上の寺社への見通しにも配慮する
- 寺社地らしい落ち着いた照明を用いる



落ち着いた雰囲気のある寺町のまちなみ

1-6 四谷南・信濃町エリア

新宿通りと JR 線に挟まれた平坦な台地上に位置しており、江戸時代には主に武家地でした。エリアの北側は、現在でもその道路基盤を受け継ぎ、細長い直線道路を中心に細かい敷地割りが並んでいます。また、エリアの南側では、大規模な大名屋敷が立地していたこともあり、生垣で囲われた大規模な敷地割りが特徴となっています。



明治神宮聖徳記念絵画館の眺望の保全に関する景観保全誘導区域

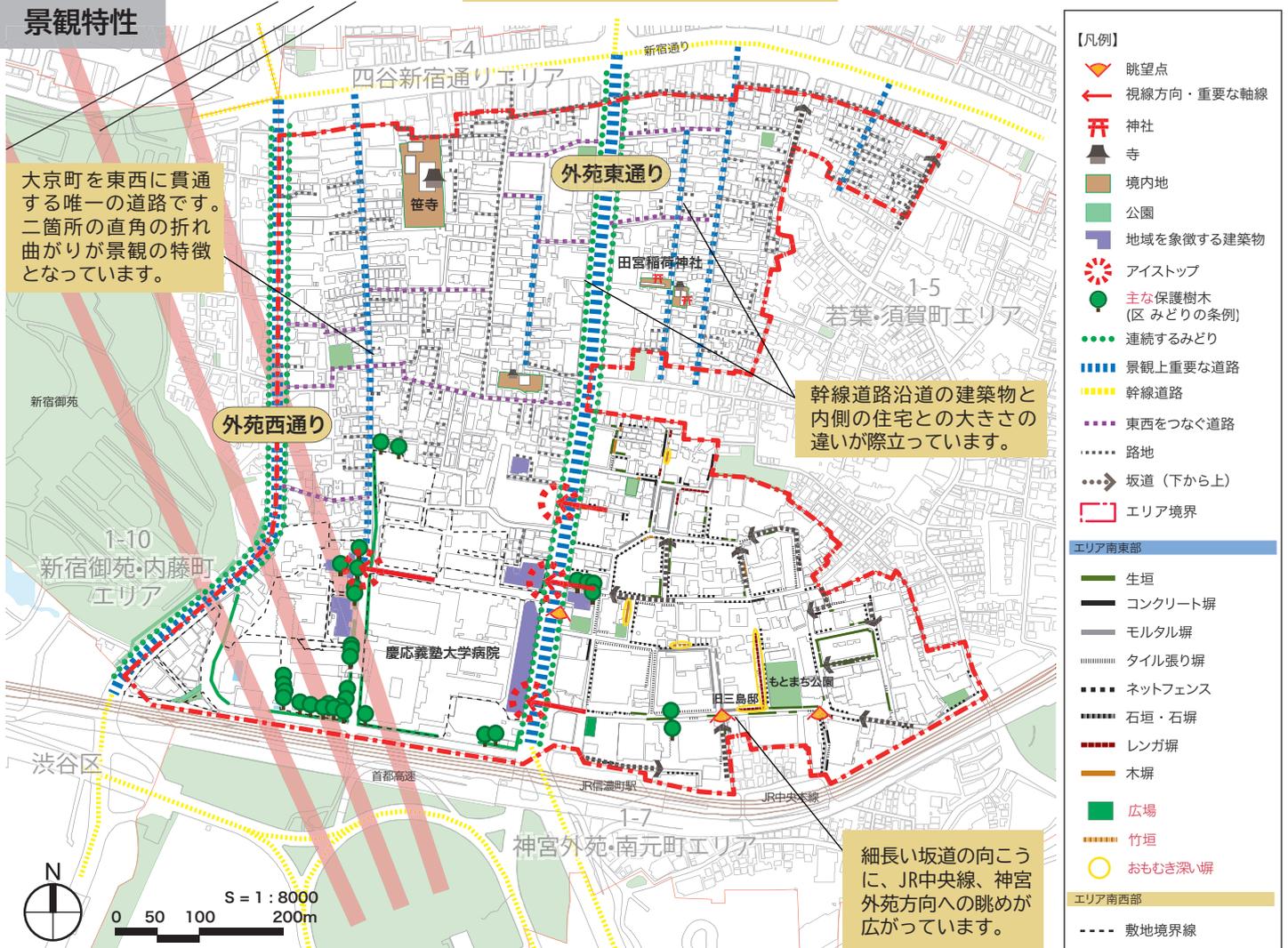
広域的な景観形成ガイドライン 2-7 明治神宮聖徳記念絵画館の眺望の保全に関する景観形成ガイドライン (P.276) の内容に従う必要があります。

景観特性

大京町を東西に貫通する唯一の道路です。二箇所の直角の折れ曲がり景観の特徴となっています。

幹線道路沿道の建築物と内側の住宅との大きさの違いが際立っています。

細長い坂道の向こうに、JR中央線、神宮外苑方向への眺めが広がっています。



【凡例】	
	眺望点
	視線方向・重要な軸線
	神社
	寺
	境内地
	公園
	地域を象徴する建築物
	アイストップ
	主な保護樹木 (区みどりの条例)
	連続するみどり
	景観上重要な道路
	幹線道路
	東西をつなぐ道路
	路地
	坂道 (下から上)
	エリア境界
エリア南東部	
	生垣
	コンクリート塀
	モルタル塀
	タイル張り塀
	ネットフェンス
	石垣・石塀
	レンガ塀
	木塀
	広場
	竹垣
	おもむき深い塀
エリア南西部	
	敷地境界線

1. 大規模敷地と敷際の設え



大規模敷地が目立つエリア南東部では、以前は屋敷町の風格ある塀や生垣が多かった敷際が土地利用の変化によりみどり豊かで開放的な設えに変わりつつあります。また、エリア南西部では、慶応義塾大学病院を始めとして、さらに大規模な敷地となっており、敷地を囲む豊富なみどりがまちなみの重要な要素となっています。

2. 細い直線道路ごとのまとめ



新宿通りから南へ入ると遠い先まで見通せる直線道路が幹線道路と併走しています。その直線道路同士を結ぶ道路はほとんどありません。敷地奥へと伸びる路地は行き止まりとなっており、積極的な緑化がされているものの、広がりや変化を欠いたやや単調な景観となっています。

3. 対照的な二本の幹線道路



幅員の広い外苑東通りは、スッキリとした街路樹と商店の連なりによって、開放的で賑やかな景観となっています。また、外苑西通りはみどり豊かな街路樹と、沿道の大規模建築物によって、落ち着いた景観となっています。

風格ある屋敷町と調和したみどり豊かなまちなみへ

平坦な台地上に広がる住宅地では、良好な住宅地のまちなみを形成し、南側の大規模な敷地では、まとまったみどりによる潤いを創出する。

景観形成の方針

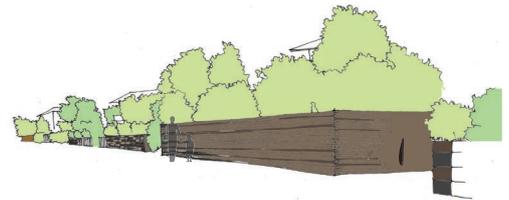
1. 風格ある屋敷町のまちなみを保全する

景観形成の考え方

塀・生垣や緑化等を工夫し、屋敷町の風格を創出する。

具体的な方策

- 既存の歴史的な煉瓦塀や樹木を保全する
- 単調になりがちなコンクリート塀等は避ける
(生垣・木塀・煉瓦塀など)
- 擁壁の上部の塀・さくは高さを抑える
- 擁壁は周囲と調和し、圧迫感を与えないものとなるよう工夫する
(壁面緑化を行う、自然素材を用いる、分節化を図る など)
- 敷地境界に塀や生垣を設けない場合でも、道路沿いでは既存の樹種を用いた積極的な緑化を行う



おもむきのある塀と庭から溢れるみどり

2. 直線道路を広がり潤いのある景観とする

景観形成の考え方

細い直線道路を中心とするやや単調なまちなみに、路地沿道からあふれ出すみどりによって変化をつける。

具体的な方策

- 道路沿いは空地を設け、積極的に緑化を行う
- 道路の入口や交差点に面する場所では、角地を意識した形態意匠*とする
- 奥行きのある空地を道路と直角方向にとり、緑化を行う
- 直線道路と交わる路地沿いや路地の奥の行き止まりに対して緑化を行う



みどりでまちなみに変化をつける

3. 幹線道路沿道の賑わいと快適な歩行者空間をつくる

景観形成の考え方

エリア内の広域幹線道路（外苑東通り、外苑西通り）沿道では、賑わいを創出し快適な歩行者空間をつくる。

具体的な方策

- 低層部*の壁面の位置は後退させ、道沿いにゆとりをつくる
- 低層部の賑わいを感じられるよう、開放的な意匠*とする
- 夜間景観に配慮し、シャッターは透過性の高いものとする
- 賑わいを演出しつつ、歩行者の安全な歩行に寄与する照明計画とする
- 外苑西通りの沿道建築物は落ち着いた意匠とし、豊富なみどりを活かす



歩行者空間を広くとり、ゆとりある景観をつくる

1-7 神宮外苑・南元町エリア

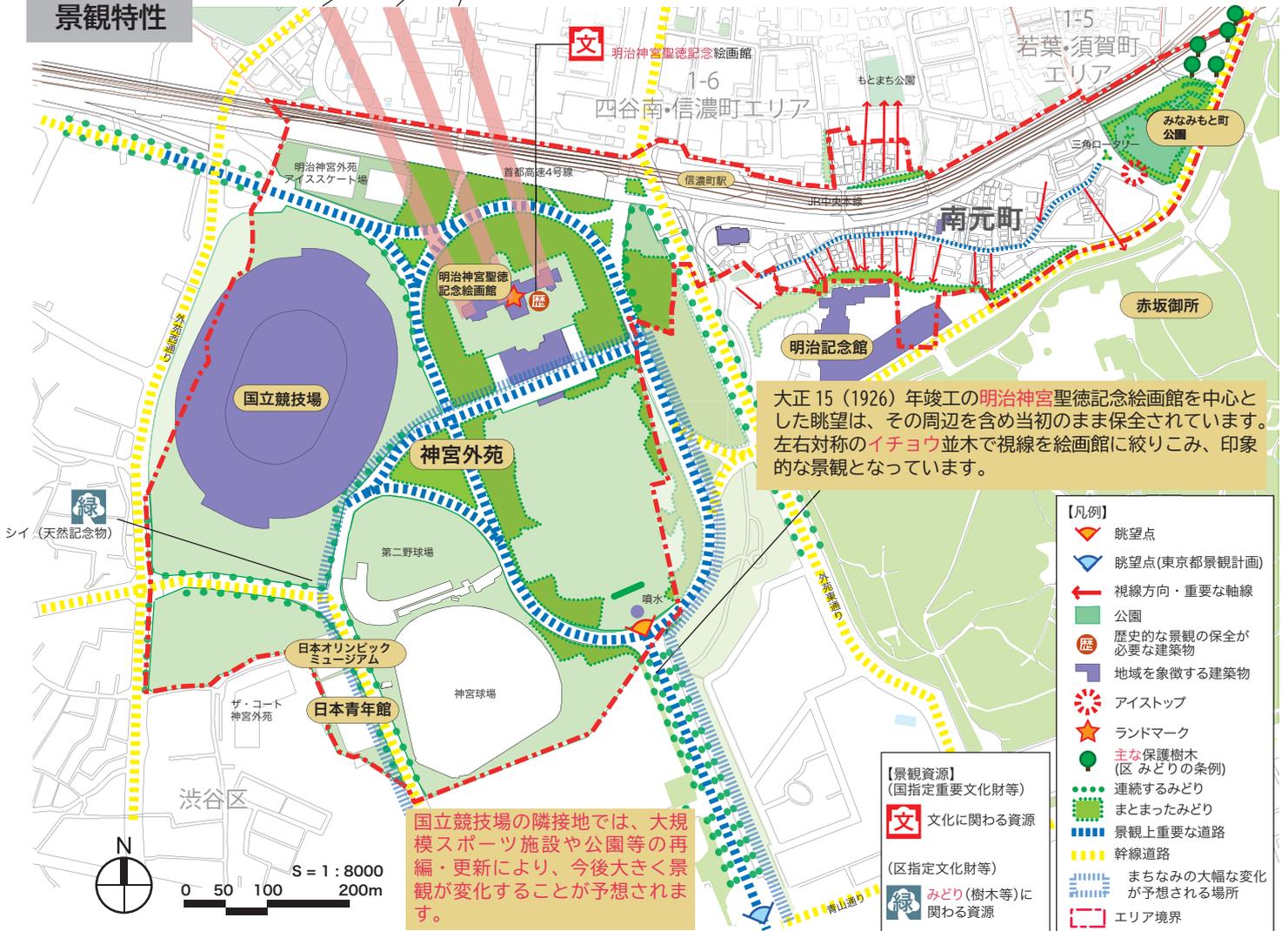
明治神宮外苑は台地上に位置し、周囲を広幅員道路が通っています。そのため、**明治神宮聖徳記念絵画館**を中心とする眺めは広がりがあり、東京を代表する風格のある景観となっています。一方、谷地に位置する南元町は、周囲の豊富なみどりに囲われた落ち着いたまちなみとなっています。



明治神宮聖徳記念絵画館の眺望の保全に関する景観保全誘導区域

広域的な景観形成ガイドライン 2-7 明治神宮聖徳記念絵画館の眺望の保全に関する景観形成ガイドライン (P. 276) の内容に従う必要があります。

景観特性



1. 壮大な眺望景観*



イチヨウ並木から**明治神宮聖徳記念絵画館**を望む眺望景観は、壮大なものです。また、**明治神宮聖徳記念絵画館**前の芝生広場では、みどりに囲まれた広大な見晴らしが得られます。

2. 外濠からつながるみどり



外濠と迎賓館からつながるみどりが、神宮外苑にもびてきています。みなみもと町公園から向かいの赤坂御所ともつながり、都心とは思えない重厚なみどりのストックとなっています。

3. 変化のある景観



南元町の住宅は、谷地を通る緩やかに曲がる道路沿いに立ち並んでいます。まちなみの向こうに、明治神宮外苑や赤坂御所のみどりが見え隠れする、**地形の変化が感じられる**奥行きのある景観となっています。

神宮外苑の広大な眺めと多様で豊かなみどりに囲まれたまちなみへ

明治神宮聖徳記念絵画館の眺望景観や広大な見晴らしを継承するとともに、豊富なみどりに囲まれた住宅地のまちなみを保全する。

景観形成の方針

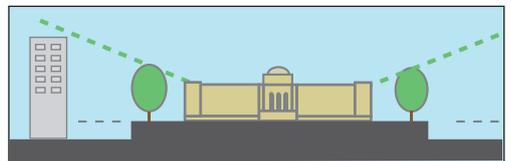
1. 明治神宮聖徳記念絵画館の広大な眺めを保全する

景観形成の考え方

明治神宮聖徳記念絵画館を中心とする広場からの広大な眺めを、将来に渡って継承する。

具体的な方策

- 広場を取り囲む既存樹木を保全する
- 広場からの眺めに配慮した形態意匠*とする
- 色彩はみどりと調和した落ち着いたものとし、特に、彩度*の高いものは避ける
- 屋上広告物は、設置しないようにするか、建築物と一体的に計画し、周囲からの見え方に配慮する
- イチョウ並木を中心としたみどり豊かな風格ある景観を創出する



明治神宮聖徳記念絵画館を中心とした広大な眺め

2. 賑わいと潤いあるスタジアム通りの景観をつくる

景観形成の考え方

国立競技場の建替えを契機に、今後も大規模スポーツ施設・公園等の再編・整備により大きな変化が予想されるスタジアム通りでは、賑わいにより活気が感じられつつみどりあふれる沿道景観を創出する。

具体的な方策

- 色彩はみどりと調和した落ち着いたものとする
- 敷地内と周辺をつなぐ連続性のあるみどりを創出する
- 歩いて楽しい通りとなるよう、ファサード*の分節化などの工夫をする
- 昼夜問わず安心して快適に歩けるよう、歩行者空間における十分な空間の確保や足元を照らすような照明器具の設置を行う
- 壁面の後退などにより圧迫感の軽減を図る



みどりと賑わいがあふれる空間を創出する

3. まとまったみどりと身近なみどりを 感じられる景観をつくる

景観形成の考え方

住宅地から、周辺を包み込む神宮外苑や赤坂御所のみどりを眺められるよう配慮する。また、住宅地内でも身近なみどりを感じられるようにする。

具体的な方策

- 住宅地内部から周囲のみどりを眺められるような配置とする
- 色彩はみどりと調和した落ち着いたものとし、特に、彩度の高いものは避ける
- 外壁の素材は、自然素材のものを使用する
- 視線が集中しやすい道路の折れ曲がり部分などでは、積極的に緑化を行う



路地の奥に豊かなみどりが見える。この奥行きのある眺めを保全・創出する

1-8 花園神社周辺エリア

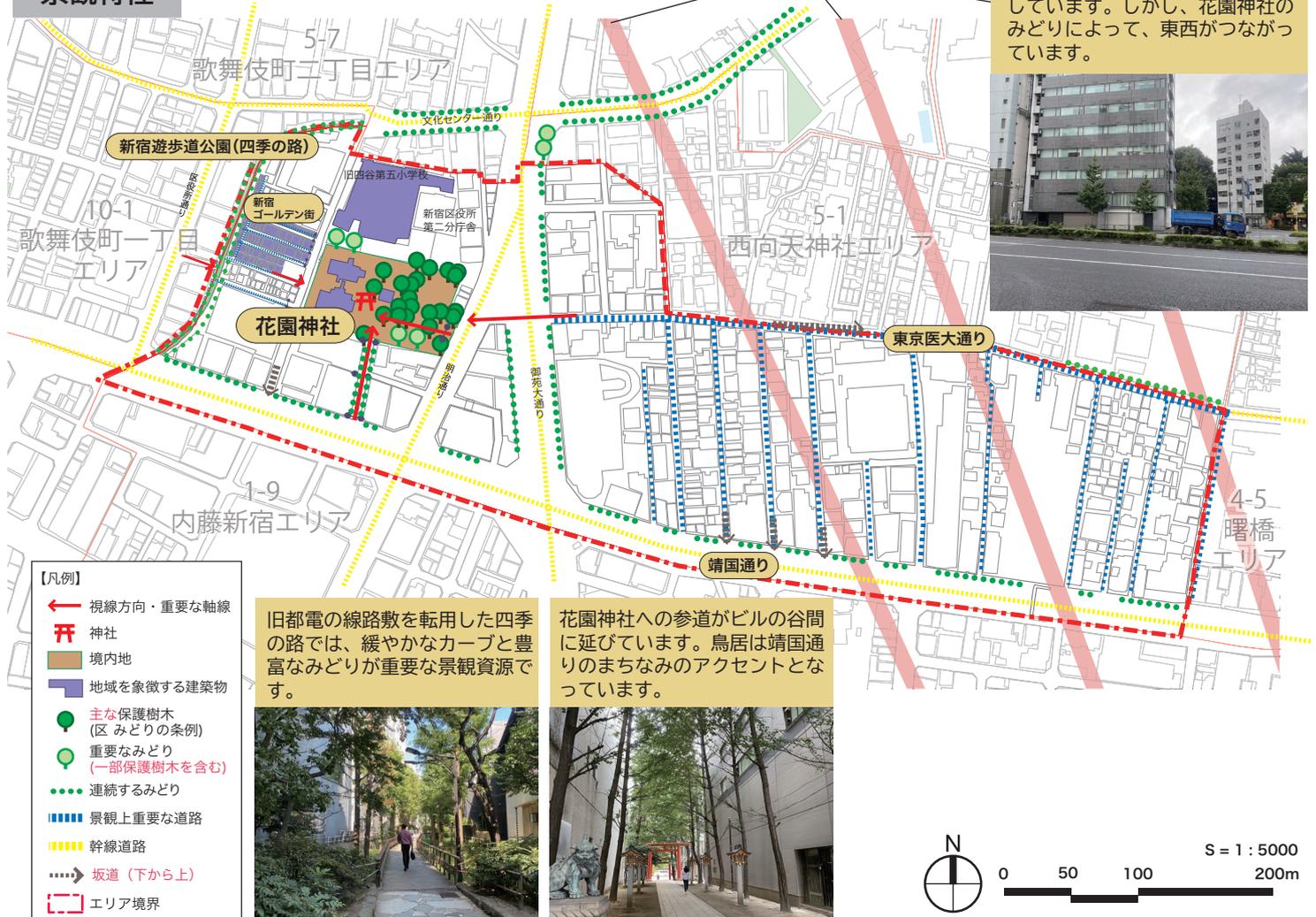
靖国通りの北側に広がる平坦な土地に位置しています。明治通りを挟んで西側には、**みどり**豊かな「四季の路」や「花園神社」、また個性的な店舗の並ぶ「ゴールデン街」があります。東側は、南北に伸びる細長い道路に、小規模のマンションや業務ビル等が建ち並ぶまちなみとなっています。



広域的な景観形成ガイドライン 2-7 明治神宮聖徳記念絵画館の眺望の保全に関する景観形成ガイドライン (P.276) の内容に従う必要があります。

明治神宮聖徳記念絵画館の眺望の保全に関する景観保全誘導区域

景観特性



広幅員街路がエリアを大きく二分しています。しかし、花園神社のみどりによって、東西がつながっています。



1. みどりのまとめ



花園神社の境内や四季の路のまとまったみどりは、**風情あるおもむきを創出しており**、エリアの重要な景観資源*となっています。特に花園神社のまとまったみどりは、幹線道路越しでも目に入ります。

2. 小規模店舗からなる景観



四季の路と花園神社との間には**小規模店舗からなるゴールデン街**があります。細い路地に長屋が並び、細やかな間口を個性的に装飾した店舗が連なる、**個性ある**景観となっています。

3. 南北の細長い道路景観



靖国通りから北方向に伸びる直線道路沿いに**商業・業務・住宅の用途が混在した**建築物が建ち並んでいます。その直線道路同士を結ぶ道路はほとんどありません。敷地奥へと伸びる路地も少なく、広がりや変化を欠いた単調な景観となっています。

みどりでつながる歴史を活かした心地良いまちなみへ

エリアの景観の核となる花園神社を中心として、みどりでつながる沿道景観を創出し、商業、業務、住宅が調和したまちなみをつくる。

景観形成の方針

1. 花園神社を中心として落ち着いたまちなみをつくる

景観形成の考え方

花園神社境内からの眺めを保全するとともに、周辺のまちなみをみどりある落ち着いたものとする。

具体的な方策

- 神社周辺では、神社の雰囲気と調和し落ち着いた形態意匠*及び色彩とする
- 特に、境内から見える場合は、境内からの眺めに配慮したものとする
- 参道に面する場合は、神社への眺めを阻害しないようにする
- 神社周辺のまとまったみどりを保全・創出する
- 神社周辺では落ち着いた照明計画とする



境内から見える建築物

2. みどり豊かで賑わいのある四季の路の景観をつくる

景観形成の考え方

みどりの豊かな四季の路沿いに、みどりと調和し心地良い賑わいが感じられるまちなみをつくる。

具体的な方策

- 四季の路から見える場合は、みどりと調和する落ち着いた色彩や素材とする
- 四季の路沿いでは、四季の路に対して正面性をもった意匠*とする
- 安心感をもたらす落ち着いた照明計画とする
- 室外機等の設備機器は、四季の路から直接見えないようにする



四季の路の景観

3. 直線道路を広がり潤いのある景観とする

景観形成の考え方

南北方向の直線道路を中心とするやや単調なまちなみに、路地の入り口や敷地前面の緑化等で変化をつける。

具体的な方策

- 道路沿いは空地を設け、積極的に緑化を行う
- 路地の入り口や交差点に面する場所では、角地を意識した形態意匠とする
- 奥行きのある空地を道路と直角方向にとり、緑化を行う
- 室外機等の設備機器の配置に配慮する



みどりで単調さを解消していく

4. 新宿ゴールデン街の個性ある景観を活かす

景観形成の考え方

新宿ゴールデン街の路地空間を活かしたまちなみをつくる。

具体的な方策

- 店舗の間口や袖看板が生み出す個性的な景観を活かした色彩及び形態意匠とする
- 路地空間の確保や歩きやすさの向上のため、設備機器等の位置に配慮する



ゴールデン街の個性ある景観

1-9 内藤新宿エリア

江戸時代には、宿場町「内藤新宿」が立地していました。現在は新宿通りを中心に業務・商業・居住機能が混在しています。戦後に、戦災復興区画整理事業が実施されたため、整った道路基盤となっています。新宿駅に近い西側は商業施設が多く、賑わいあふれるまちなみに、また、四谷方面の東側は住宅が多く、落ち着いたまちなみとなっています。

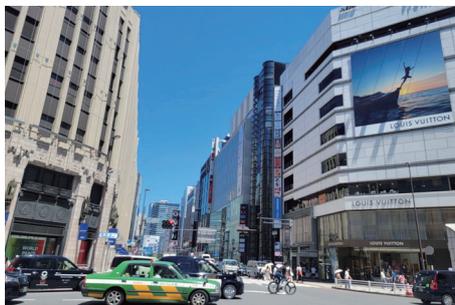


1. 壁面の位置がそろった新宿通り



新宿通り沿いの建築物は、壁面の位置を揃え、百尺ライン（高さ31m程度）を意識したまちなみとなっています。人通りも多く、新宿区の骨格となる通りとなっています。

2. すみ切り*交差点



戦後の戦災復興区画整理事業で、交差点では大きくすみ切りをしました。建築物は、このすみ切りを活かしてコーナーに意匠*的配慮をしたものが多く、特徴的な景観を創出しています。また、区画整理で生じた直線道路は見通しがよく、整ったまちなみとなっています。

3. 建物用途の偏りと混在



エリアは西側の繁華街と東側の住商混在地区に分かれ、同一の道路基盤にも関わらず、建築物の形態意匠*が異なり、まちなみに変化を与えています。また、建築物の正面が集中する道路と、裏側が集中する道路でもまちなみに違いがあります。エリアの西側では、飲食店から道路へと賑わいがにじみ出ています。

景観形成の目標

風格のある新宿通りと整った道路基盤を**活かした**整然としたまちなみへ

新宿通り沿道の建築物の形態意匠の調和を図るとともに、区画整理された場所における、賑わいと住み心地の調和した**歩きやすい**まちなみを創出する。

景観形成の方針

1. 賑わいと風格のある新宿通りの沿道景観をつくる

景観形成の考え方

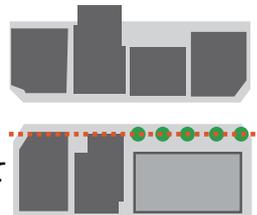
新宿の賑わい交流の骨格である新宿通りと沿道建築物とが調和した、賑わいと風格のある新宿通り沿道の景観形成を図る。

具体的な方策

- 壁面の位置や百尺ライン(高さ 31m程度)のファサード*の連続性に配慮する
- 壁面の分節化を図り、長大な壁とならないよう配慮する
- 軒線の連続性に配慮する
- 屋上広告物は、設置しないようにするか、建築物と一体的に計画し、周囲からの見え方に配慮する
- 低層部*では、賑わいを演出しながら歩きやすさにも配慮した照明計画とする



スカイライン*や軒線などの水平方向の連続性に配慮する



壁面の位置に沿って街路樹を植える

2. 整然としたまちなみと歩きやすい空間をつくる

景観形成の考え方

区画整理による整った道路基盤を**活かし**、整然としたまちなみをつくりながら、このエリアに訪れる様々な人にとって**歩きやすい空間**を創出する。

具体的な方策

- 壁面の位置の連続性に配慮する／後退する場合は、照明や植栽帯により既存の壁面線を継承する
- 壁面の分節化を図り、長大な壁とならないよう配慮する
- 開発に伴ってオープンスペース*を計画する場合は、周囲の歩道と一体的に整備を行い、歩きやすい空間を創出する



壁面の位置や植樹帯、街灯の配置を整える

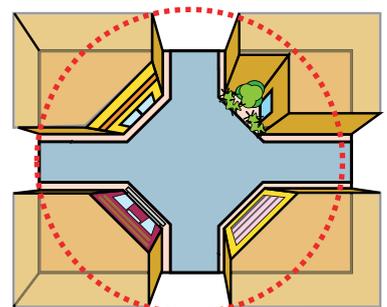
3. コーナー部分を**活かした**魅力的なまちかどをつくる

景観形成の考え方

区画整理により生じた比較的大きなすみ切り部分を**活かし**、建築物の形態意匠を工夫し魅力的なまちかどを創出する。

具体的な方策

- コーナー部に面した場所には、エントランス等開口部*を設ける
- コーナー部に面した建築物の各面は、調和した意匠とする



4つのコーナーで一つのまちかどをつくる

1-10 新宿御苑・内藤町エリア

江戸時代には高遠藩内藤家の下屋敷がありました。明治時代以降に、その大部分は宮内省の管理となり、新宿御苑として整備されました。新宿御苑内からのみどりに囲まれた眺めや、周囲から新宿御苑のみどりへの眺めなど、新宿御苑のみどりは貴重な景観資源*となっています。また、屋敷地の一部は内藤町となり、みどりの多い良好な住宅地となっています。



景観特性

寺院に隣接し、旅館やビジネスホテルが立ち並ぶ特徴的なまちなみとなっています。

周辺の新たな開発による高層建築物などは、新宿御苑からの眺望に配慮する必要があります。

- 【凡例】
 (都指定文化財等)
 歴史に関わる資源
 (国指定重要文化財等)
 歴史に関わる資源



1. みどりで囲まれた景観



新宿御苑は広大な敷地の大部分が芝生で覆われ、周囲は高木で囲まれています。樹木と空に囲まれた、都心では貴重な見晴らし景観が得られます。園内には様々な種類の植物が生育しており、多様なみどりに囲まれながら、人々が思い思いに過ごす様子が見られます。

2. 新宿御苑からあふれ出すみどり



新宿御苑のみどりは隣接する道路にもあふれ出しています。そのため、北側の道路沿いからは、豊かなみどりを感ずることができます。

3. みどりあふれる良好な住宅地



新宿御苑の東隣にある内藤町では、新宿御苑の豊富なみどりを背景に、古くからの樹木、新しい生垣や植栽などがあり、深みのあるみどり豊かな景観となっています。特に多武峯神社周辺には、古くからの樹木が集中しています。

新宿御苑を中心としたみどりに包まれたまちなみへ

新宿御苑内からの眺望景観*を保全するとともに、新宿御苑に隣接する道路や内藤町ではみどり豊かな景観の形成を図る。

景観形成の方針

1. 新宿御苑からの眺めを保全する

景観形成の考え方

新宿御苑周辺の建築物や工作物は新宿御苑からの眺めに配慮したものとし、みどりで囲われた景観を保全する。

具体的な方策

- 新宿御苑内の眺望点*や各視点場からの眺めに配慮した形態意匠*とする
- 新宿御苑から見える建築物や工作物の色彩は、みどりや空と調和した落ち着いたものとし、特に、彩度*の高いものは避ける
- 新宿御苑から見える範囲に、屋上広告物を設置しない



みどりで包まれた新宿御苑からの眺めを保全する

2. 新宿御苑と調和した周辺の景観をつくる

景観形成の考え方

新宿御苑北側の通りを、新宿御苑と調和したまちなみとする。

具体的な方策

- 素材や色彩はみどりと調和した落ち着いたものとする
- 新宿御苑からの連続性に配慮した緑化を行う
- みどりの連続性に加え、多様性にも配慮した植栽計画を行う



みどりと賑わいが調和した通り

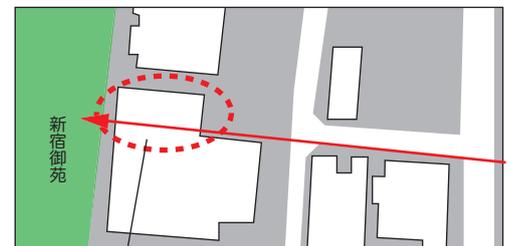
3. 内藤町のみどり豊かで良好な住環境を維持する

景観形成の考え方

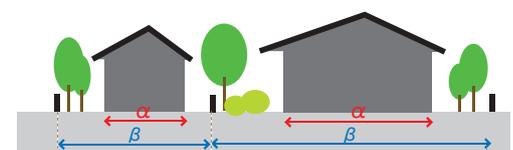
新宿御苑と隣接した、みどり豊かで潤いのあるまちなみを将来に渡って継承する。

具体的な方策

- 既存樹木を保全する
- 新宿御苑への眺めに配慮した配置とする
- 外苑西通り沿道では後背の住宅地側に空地をとり、積極的に緑化する
- 色彩や素材はみどりと調和した落ち着いたものとする
- 新宿御苑のみどりとのつながりを意識した植栽計画を行う



新宿御苑のみどりへの眺めに配慮する



α / β をなるべく小さく抑える
御苑に隣接した街区*での建物配置の工夫例